

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和2年度第1回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和2年6月24日（水）9時30分～12時00分
開催場所	四番丁スクエア 1階会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 令和元年度高松市伝統的ものづくり振興事業報告・決算 (3) 令和2年度高松市伝統的ものづくり振興事業計画・予算 (4) その他 (5) 高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 審査
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	高松市情報公開条例（第7条）に該当
出席委員	5 人 本多委員、谷委員、穴吹委員、井藤委員、英委員
傍聴者	2 人 （定員 2 人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過および審議結果

（事務局）

高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項の規定により、会議成立の報告。

高松市情報公開条例第7条に該当するため、議題（5）高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査について、非公開とすることを決定。

～事務局より議題（1）会長・副会長の選任について説明～
会長は本多委員、副会長は谷委員に決定。

～事務局より議題（2）令和元年度高松市伝統的ものづくり振興事業報告・決算について説明～

（委員）

工芸ウィークの産地ツアーについて、参加者の満足度は高かった。産地ツアーで訪問した「中西珍松園」では、再来されたという話があった。少しずつだが、体験型の施策は必要。子どもの頃から、伝統工芸品があるという事にふれる事業や学校での授業が大事だと、肌で感じる。

（委員）

産地ツアーやイベント等を行ったが、まわっていただくのは難しい。ただ、チラシの配布率は良かった。アプリでは無く紙ベースというのは、フリーWi-Fiに困る海外の方や、国内の方でも年配の方には特にありがたい存在になった。作り手さんの情報も少し載せていたので、そのあたりの受けが良かったのかと思う。

審議経過および審議結果

(委員)

ロイヤルコペンハーゲンとのコラボについて、受注制作されているようで非常にポジティブに感じた。

(委員)

「アートフェア東京」だが、救済措置等はあるのか。2018年度は販売実績があったので、今年の方がかわいそうと思う。

(事務局)

県と一緒にやるのは昨年度まで。今年度からは、県の単独事業となるため、事業内容は分からない状況。

(委員)

夏休み親子体験教室の募集にも使う、夏休み親子探検隊リーフレットについて、デザインを変えた方が良いのではないか。

～事務局より議題（3）令和2年度高松市伝統的ものづくり振興事業計画・予算について説明～

【夏休み親子体験教室、学校巡回教室について】

(委員)

学校巡回教室の希望校について、学校が毎回同じところなのか、違うのかで意味合いが違ってくるかと思う。

材料代等がかなり違うのかもしれないが、学校巡回教室の方が、職人さんの方にも手当てが厚くて、夏休み親子体験教室の方が少ない感じがするのが気になる。

(事務局)

事業の見直しにより、本年度からはリーフレットの作製は行わずに、ホームページ、広報高松の方で周知していくこととなった。

(委員)

一保護者でもあり広告マンと言うと、広報物としては、子どもに対する、また家庭に対する案内というのは、学校配布に勝るものはない。紙に戻したらどうか。

また、夏休み親子体験教室は、宿題とあまりリンクしていない。教育委員会と上手く擦り合わせてやった方がいいのではないか。

【伝統的ものづくり産業発展事業補助金について】

(委員)

600万円については前年度のどの事業に当たるのか。補助品目が漆器と石材になっているのはなぜか。

(事務局)

本年度から県と共にする新たな事業であり、伝統的ものづくり展示会及び見本市開催補助金は廃止となる。補助対象品目については、県の要綱に基づいたものであり、県の4品目「手袋・丸亀うちわ、漆器、石材」のなかで高松市に関係するものが、漆器と石材という事。

(委員)

漆器と石に対するサポートが市としては少ないなと思っていたので、今回、少しバランスが取れたと思う。香川漆芸魅力発信事業の海外ブランド

のコラボが無くなったとのことで、そのような商品開発に補助金を利用できるのか。

(県)

使える。

(委員)

事業協同組合に所属している事業者が対象であり、組合に属さない事業者に対しては、市独自の伝統的ものづくり振興事業補助金という理解でいいか。

(事務局)

産業発展事業補助金は、組合として取り組む事業が対象。振興事業補助金は個人の事業者で申請できるものなので、組合に属している属していないに関わらずできるもの。

【伝統的ものづくり振興事業補助金について】

(委員)

事業性を評価するまでの申請数が無いのが課題。補助率の見直しとか用途の費目の拡大、出し方を見直して、事業者に使いたいと思わせる様なものに再設計しても良いのではないか。その後の展開まで必ずやりなさい等の計画書等、ある程度の方向性（絵）を申請時にこちらで準備しても良いのではないか。

(委員)

申請プロセスとしては比較的簡単な方だと思う。申請する側からすると、報告時に、報告書だけじゃなくて、プレゼンが手間だなと思う。今年に関しては、コロナという事で、どこか事業持続補助金みたいな面が出てきてしまうが、それくらいの懐があっても良いのかなと思う。

(委員)

組合に属していない人でも個人事業者でも申請が出来る点がセールスポイントになると思う。工芸ウィークのホームページ、Instagram、市のFacebook等が有るので、そのような媒体を最大活用して、広報すべき。一つプライズとして、工芸ウィークの場にて成果発表出来る場所を与えるというか、つながりを作ることで、補助金自体の認知度も上がるし事業者にとっても、販売の意味でも利点が出る気がする。

(事務局)

内容、ホームページやその後の展開で市の特産品のPRになるような事業に繋げていけるよう、委員の皆様の意見も伺いながら、あり方を見直していきたいと考えている。

【高松盆栽振興事業について】

(委員)

製造者は販売技術をもっていないので、なかなか難しい。販売側への補助に力を入れていただきたい。

(事務局)

生産者側もネットでの販売に手応えを感じてきた。盆栽をネット販売出来る様な環境に整えていくという事も視野に入れた取り組みを考えているのかなと思っている。

議題（４）その他
（オブザーバー）

オブザーバーの皆様より御意見等をいただく。

議題（５）高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 審査
補助金審査を実施。